

GT.M におけるクラウドと IDE

澤田 潔¹ CAMTA-JP¹

はじめに

近年、クラウド DB ではキー・バリュー・ストア (KVS) あるいは NoSQL (Not only SQL) と呼ばれるスキーマレスな分散ストレージ技術が話題となっている。本稿では GT.M をクラウドのバックエンド DB として挑戦的な取り組みをしている M/Wire を紹介する。

一方、M 言語の開発は、従来のテキストベースから IDE (Integrated Development Environment) 環境への移行が求められている。Cache' スタジオはその 1 つである。

Eclipse Plugin Vist A Link は、IDE である Eclipse 上で GT.M の様々な開発をサポートする Java モジュールである。

M/Wire とは？

一般的な分散 KVS-DB では、サーバー・サイドの KVS (クラウド DB) とクライアント・サイドのアプリケーションとの間で、テキストベースのプロトコルでサーバー・サイドへ参照・更新問い合わせを行っている (memcached, Redis 等)。これは例えば、Open MUMPS Interconnect MDC-OMI V1.1 (1995/12) に似通った取り扱いである。

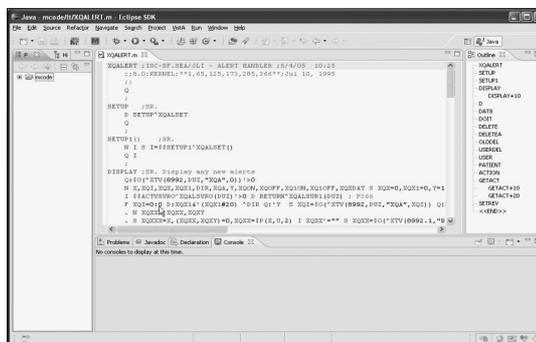
2010 年 2 月に M/Gateway 社が発表した M/Wire は、GT.M (Cache') に Redis 互換のプロトコルを持つ RPC プログラムを実装し、さらに、M テクノロジー固有な階層の散在配列構造を操作するための拡張を行っている。

クラウド向けの KVS 用プロトコルを用い

ることにより、クライアント・サイドのアプリケーション・ロジックはそのまま、NoSQL や KVS データベースを GT.M (Cache') に置き換えることが可能となり、クラウド環境における M テクノロジーのアドバンテージを実証するような実験が可能となる。

Eclipse Plugin-VistA Link とは？

サーバー側で動作する VistA Link に対して、Eclipse に追加した VistA Link プラグインからの RPC により、GT.M の統合開発環境を実現する。テキストハイライトのみならず、%RD や %GL など、ビジュアル感覚の操作ができることは魅力的である。



参考文献 (URL)

1. M/Gateway_M/Wire
<http://gradvs1.gateway.com/main/index.html?path=mwire>
2. Editing and Debugging Mumps with VistA and the Eclipse IDE
http://worldvista.org/conference_presentations/15th%20Community%20Meeting/Editing%20and%20Debugging%20Mumps%20with%20VistA%20and%20the%20Eclipse%20IDE.ppt/at_download/file